

JACCRO 短期海外派遣 学会参加報告 第 45 回 米国臨床腫瘍学会 (ASCO 2009)

癌研有明病院 消化器内科
行澤 齊悟

<全体を通して>

“Personalization of Cancer Care” をテーマに、遺伝子情報をもとにした癌の個別化治療の開発が進んでいることが、多く発表されていた。多くの有望な新薬が紹介される中で、胆膵領域では当面は Gem を中心に据えた治療開発が進むことには変わりはないと感じた。

世界でもっとも権威ある学会に参加でき、そのスケールと内容の濃さにただ驚嘆する日々であった。今後、日本からも良質な試験が世界に向けて発信できればと、大変刺激された。

■膵癌

・ 切除後補助療法

ESPAC3 試験

標準は Gem6 コース: CONCO001 と変化なし。

5FU/LV に対して Gem の優位性は証明できなかったが、adverse event の発生率は Gem で有意に低かった。実臨床の上では、Gem がなんらかの理由で使いづらい症例で、5FU/LV を同等の生存が望める薬剤として用いることができるかもしれない。

・ 進行・再発癌

GIP-1 Study

有望とされてきた Gem/CDDP が RCT で初めて劣性傾向を示した。

進行・再発の標準はやはり Gem 単剤か。

■胆道癌

ABC-02 試験

Gem vs Gem/CDDP のランダム化第 3 相試験で Gem/CDDP の優越性が示された。

ゲムシタビン+プラチナが事実上の標準となった。同様の成績が日本の BT22 試験でも示された。

今後、国内でもプラチナ製剤の保険承認が望まれる。

まだまだ、胆道癌の発表演題は少なく、日本が世界を先導できるような治療開発を担ってゆける期待感がもてた。